

# 平成24年度台東区中核病院事業運営評価表

(平成23年度実績の評価)

病院名	台東区中核病院(公益財団法人 ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院)
開始年度	平成14年度
区所管	台東区役所健康部健康課
付託協議会	台東区中核病院運営協議会
協議会の目的	区民が身近な地域で安心して適切な医療を受けられるよう、台東区が地域医療の中核を担う病院として支援する永寿総合病院が、その機能と役割を適切に果たしていることを評価・検証することにより、病院運営の透明性および区民に対する説明責任を確保する。
評価項目	①「中核病院整備の理念」に従い、病院運営を行っているか ② 政策的医療を中心とした医療機能を安定的に確保しているか

## 1 事業の概要

根拠条例・計画等
<b>【覚書・協定等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下谷病院移転後の地域医療確保に係る覚書(平成9年12月)</li> <li>・ 財団法人ライフ・エクステンション附属永寿総合病院の移転、新築、増床及び運営に関する協定書(平成11年6月)</li> <li>・ 財団法人ライフ・エクステンション附属永寿総合病院の運営に関する協定書(平成23年8月)</li> </ul> <b>【補助金等交付要綱】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台東区中核病院施設・設備整備事業補助金交付要綱(平成13年度)</li> <li>・ 台東区中核病院運営費補助金交付要綱(平成14～18年度)</li> <li>・ 台東区中核病院産科・小児科充実支援補助金交付要綱(平成20～22年度)</li> <li>・ 台東区中核病院に対する運営費助成交付要綱(平成23～27年度)</li> </ul> <b>【区計画等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台東区地域医療あり方検討委員会報告書(平成10年5月)</li> <li>・ 台東区長期総合計画(平成17年3月策定) <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 地域医療体制の整備[51] 4) 地域医療中核病院への支援</li> </ul> </li> <li>・ 台東区行政計画(平成20～22年度) 事業No.127 中核病院の産科・小児科充実支援</li> <li>・ 健康たいとう21推進計画 IV地域医療の充実 IV-2. 中核病院の機能の発揮</li> </ul>
中核病院整備の理念
① 区民にとって日常的に必要な入院治療を行なう総合的な病院を確保します。この病院は、そのために必要となる医療資源と機能水準を備えます。 ② 区民が住み慣れた地域の中で必要に応じて一貫した医療サービスを受けることができるよう、医療機関がその役割を分担し合いながら相互に連携する地域完結型の医療供給体制を区内につくるために、医療連携を支える中心となる病院を確保します。 ③ 病院の建設と運営を最小のコストで実現し、医療の経済性の側面からも区民に利益を還元します。 ④ 地域から信頼される病院としてふさわしいだけの「経営倫理」「病院運営の透明性」「区民に対する説明責任」を確保し、区と区民が適切に評価・検証することによって、病院運営が本理念を実現していることを確認します。
平成23年度に締結した協定に基づき区が要請している医療機能等
①医療機能(協定書 第5条) <ul style="list-style-type: none"> <li>・産科と小児科の一体的運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 区内に分娩可能な施設が不足していること、また小児科のある病院が永寿総合病院と浅草寺病院だけであることから、中核病院では、産科の診療を行うとともに、小児科と一体的に運営することによって、区民が身近な地域で安心して子供を産み育てることができる体制を確保する。</li> </ul> </li> <li>・24時間対応の救急医療 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 入院治療を必要とする内科系及び外科系の中症者、重症者に対応する救急医療体制を整えることにより、生命に危機のある一部の重篤患者を除き、区内での救急医療体制を確保する。</li> </ul> </li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時医療の拠点 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 区内唯一の災害拠点病院であり、大震災時等に災害時医療の拠点を確保する。</li> </ul> </li> <li>・長期療養ができる療養病床 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 高齢化率の高い本区の地域特性に対応した、急性期を経過後も安心して療養できる病床を確保する。(現在、医療型療養病床が46床)</li> </ul> </li> <li>・集中治療機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 重症患者の手術後の手厚い医療を提供する施設を確保する。(現在6床。平成22年度にハイケアユニット加算取得。)</li> </ul> </li> <li>・脳卒中等の後遺症に早期対応するリハビリテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 急性期治療を経過した後に、専門的・集中的にリハビリテーションを行うことにより、寝たきりを予防するとともに、患者が自宅に戻ったあとの日常生活を支援する。</li> </ul> </li> <li>・終末期の患者さんに対し、心安らぐ医療を提供する緩和ケア <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 重症患者の痛みを和らげ、患者のQOLを重視した心安らぐ医療を確保する。(現在緩和ケア病床は16床)</li> </ul> </li> </ul> <p>②他の医療機関、福祉施設等との連携・協力(協定書 6、7条)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 病診連携や区内特別養護老人ホームの協力病院などで、他医療機関や福祉施設と連携・協力を行う。</li> </ul>
<b>区民(利用者)の意見等</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・p5の「投書・意見等の指摘事項、患者アンケート結果概要」を参照</li> </ul>
<b>永寿総合病院の取り組み等</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・p6の「①組織・機能の評価」の〈これまでの主な取り組み〉及びp7の〈事業者(自己)評価〉を参照</li> </ul>

## 2 事業概況の推移

		区分	単位	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (実績)	増減 (23-22年度)	平成22年度 公営企業 年鑑	
指標値	規模	病床数								
		一般病床	床	338	338	338	338	0		
		療養病床	床	46	46	46	46	0		
		緩和ケア病床	床	16	16	16	16	0		
		計	床	400	400	400	400	0		
	事業収支	総収益	医業収益	千円	7,286,665	7,147,289	7,926,648	8,587,421	660,773	
			医業外収益	千円	197,526	229,003	205,944	253,535	47,591	
			うち台東区補助金(α)	千円	(100,000)	(100,000)	(100,000)	(100,000)	0	
			計	千円	7,484,190	7,376,292	8,132,592	8,840,956	708,364	
		(β)費用	医業費用	千円	7,171,937	7,358,909	7,782,709	8,436,078	653,369	
			医業外費用	千円	146,017	126,229	134,277	162,180	27,903	
			計	千円	7,317,954	7,485,138	7,916,986	8,598,257	681,271	
		損益	医業損益	千円	114,728	-211,620	143,939	151,343	7,404	
			医業外損益	千円	51,509	102,774	71,667	91,355	19,688	
			計	千円	166,237	-108,846	215,606	242,699	27,093	
	経営分析	事業全体 病院事業指標との比較 地方公営企業年鑑と	受益者負担率(α ÷ β)	%	1.37	1.34	1.26	1.16	-0.10	8.57
			実質収益対経常費用比率	%	100.9	97.2	101.5	101.7	0.2	88.9
			医業収益に対する職員給与費比率	%	53.3	55.3	53.9	52.3	-1.6	51.3
			医業収益に対する委託料比率	%	8.5	8.2	8.2	8.4	0.2	11.1
			医業収益に対する減価償却費比率	%	2.6	2.5	2.1	2.3	0.2	10.2
病床利用率(一般)病床			%	84.1	79.7	86.8	88.8	1.9	73.7	
入院患者1人1日当たり診療収入			円	43,201	43,733	45,531	47,464	1,933	42,803	
外来患者1人1日当たり診療収入			円	7,983	8,467	9,031	9,675	644	10,710	
医師1人1日当たり診療収入			円	276,999	257,400	284,261	283,653	-608	289,777	
看護部門1人1日当たり診療収入			円	61,489	63,099	67,235	70,273	3,038	73,870	
1床当たり償却資産	千円	11,549	11,501	12,697	12,292	-405	35,999			
[注] 地方公営企業年鑑について ・ (総務省自治財政局編) 病院事業 平成22年度 第58集 東京都抜粋(都立病院を除く9病院の平均) ・ 受益者負担率は「他会計繰入金(実繰入額)」÷「総費用」で算出している。										
上記内容に対するコメント(収益、費用、運営効率等の動向など)、病院独自のPR事項など										
・平成23年4月、循環器医師1名退職により循環器科は低迷したが、24年4月から2名増員した。 ・救急常勤医師1名増員により、病院目標である「断らない病院」の実践に努めた。 ・内科ブースを増設し、更なる受入体制の充実を行った。 ・東日本大震災後から、全病院を挙げて節電に取り組み、費用減となった。										

区分		単位	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (実績)	増減 (23-22年度)		
①地域に必要な医療機能	産科・小児科 の一体的運営	産科	医師数	人	4	4	4	4	0
			外来患者数	人	5,617	5,201	5,927	5,288	-639
		入院患者数	人	4,471	4,131	4,293	3,823	-470	
		分娩件数	件	499	461	498	449	-49	
	小児科	医師数	人	2	2	2	2	0	
		外来患者数	人	11,261	11,500	11,743	12,805	1,062	
		こどもクリニック患者数	人	3,688	5,071	4,123	4,210	87	
		入院患者数	人	1,329	1,587	1,427	1,326	-101	
	24時間対応救急医療	救急搬送件数	件	3,205	2,905	3,768	4,162	394	
		救急搬送割合(人員数/区人口)	%	1.96	1.73	2.24	2.46	0.22	
時間外診療患者数		人	6,880	6,721	6,602	6,435	-167		
②時代の変化に対応した医療機能	心安らぐ医療を提供する緩和ケア	当該入院患者実件数	件	110	120	115	101	-14	
		当該病棟死亡者数	人	112	116	102	88	-14	
	長期療養ができる療養病床	当該入院患者実件数	件	207	169	186	258	72	
		在宅復帰患者数	人	59	51	41	56	15	
		他施設転院患者数	人	98	104	90	108	18	
	脳卒中等の後遺症に早期対応するリハビリテーション	患者実件数	件	—	—	—	—	—	
		患者延べ件数	件	16,445	23,253	30,855	42,266	11,411	
		リハビリ診療収益	千円	70,467	80,500	113,727	154,453	40,726	
	災害時医療の拠点								
	集中治療室	当該延べ患者数	人	1,330	1,197	1,429	1,435	6	
③連携・協力	紹介率	%	34.06	34.21	36.65	37.85	1.20		
	逆紹介率	%	10.65	9.12	11.70	13.07	1.37		
	紹介患者数	人	6,230	7,067	6,073	5,983	-90		
	逆紹介患者数	人	4,044	3,536	4,374	4,653	279		
	地域の医療従事者に対する研修実施回数	回	2	11	9	10	1		
部門別・診療科別原価分析	産科	医業収益	千円	411,140	380,471	437,689	391,258	-46,431	
		医業費用	千円	418,252	403,921	456,375	414,729	-41,646	
		医業損益	千円	-7,112	-23,450	-18,686	-23,471	-4,785	
	小児科	医業収益	千円	107,922	114,123	135,960	123,436	-12,524	
		医業費用	千円	212,103	231,932	230,812	210,638	-20,174	
		医業損益	千円	-104,181	-117,809	-94,852	-87,202	7,650	
	救急医療	医業収益	千円				137,917	—	
		医業費用	千円				226,147	—	
		医業損益	千円				-88,230	—	
	緩和ケア病棟	医業収益	千円				210,495	—	
		医業費用	千円				256,639	—	
		医業損益	千円				-46,144	—	
	療養病床	医業収益	千円				274,204	—	
		医業費用	千円				320,339	—	
		医業損益	千円				-46,135	—	
	リハビリテーション	医業収益	千円				154,343	—	
		医業費用	千円				132,366	—	
		医業損益	千円				21,977	—	
	集中治療室	医業収益	千円				351,376	—	
		医業費用	千円				386,116	—	
		医業損益	千円				-34,740	—	
	産科・小児科合計	医業収益	千円	519,062	494,594	573,649	514,694	-58,955	
		医業費用	千円	630,355	635,853	687,187	625,367	-61,820	
		医業損益	千円	-111,293	-141,259	-113,538	-110,673	2,865	
7部門総計	医業収益	千円	—	—	—	1,643,029	—		
	医業費用	千円	—	—	—	1,946,974	—		
	医業損益	千円	—	—	—	-303,945	—		
上記内容に対するコメント(収益、費用、運営効率等の動向など)、病院独自のPR事項など									
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急受け入れ体制を強化したことに伴い、救急搬送件数が4,162件と前年度比で394件の増加となった。</li> <li>産科・小児科については、体制等は前年度と変更がなかったものの、震災の影響等もあり分娩件数と小児入院患者数は減少した。</li> </ul>									

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">参考情報</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">投書・意見等の指摘事項、患者アンケート結果概要</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">中核病院としての問題状況と改善方針</p>	<p style="text-align: center;"><b>投書・意見・アンケート等の結果に対するコメント(改善方策の進展状況など)</b></p> <p><b>【アンケート調査結果と改善方策の進展状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年2月1日から接遇改善の一環として「あいさつ運動」を継続実施している。なお、平成23年10月から翌年1月まで外部講師による「マナー研修」を実施した。その結果、接遇に関するアンケート評価が、4.54点から4.62点と改善した。</li> <li>・待ち時間対策については、内科外来ブースの診察室を1室増設し、8か月後に行った待ち時間についての満足度が、3.57点から3.62点と改善した。</li> <li>・待ち時間については、電子カルテ導入や検査部門システム導入の効果で、検査待ち時間は3.88点から3.92点、会計待ち時間は3.88点から3.96点と改善している。</li> <li>・職員対応のご意見については、昨年2月から「あいさつ運動」を継続実施し、本年4月には接遇委員会を設置することにより、更なる接遇改善に取り組んでいる。</li> <li>・患者さんのご意見については、ご意見検討委員会を経て、該当部署へ公開し、業務の中ですぐに改善できるものについては、改善する体制を組んでいる。</li> </ul> <p><b>【投書・ご意見等から抜粋】</b></p> <p>(ご意見) 初診時、来院した順番で受付されるよう、整理券等の配布で公平性を保ってほしい。 → 初診で受付開始前よりお待ちの患者さんには番号札をお取りいただくようにしました。</p> <p>(ご意見) 予約を取っても2時間待ちの待ち時間。改善して下さい。 → このご意見は婦人科だと思われませんが、24年2月から試験的に、希望の方にPHSをお渡しして、院外にいても呼び出しするサービスを開始しています。また、待ち時間緩和策として、平成23年5月に内科外来と平成24年5月に婦人科外来に1診察室増設しました。</p> <p>(ご意見) 職員の言葉づかいに差がある。良い人と悪い人の差が大きい。 → 平成23年2月から「あいさつ運動」を実施しています。職員全員が胸ポケットにシンボルバッジをつけ、挨拶、接遇、身だしなみなどを気を付けるよう指導しています。なお、その後の患者満足度調査の接遇部分の評価をみると、着実に評価が上がっております。</p> <p>(感謝)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間救急でお世話になり助かりました。区内にこのような(24時間対応の)病院があり心強いです。</li> <li>・外来呼び出しが番号表示になり、耳の遠い方や高齢の方にはとっても便利になった。</li> <li>・入院中に看護師さんの対応がとてもよかった。</li> </ul> <p><b>【公開講座へのアンケート意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても和やかで楽しかった。</li> <li>・親切な対応で肩が軽くなりました。</li> <li>・毎回、大変勉強になります。</li> <li>・質問の時間を多くとってほしい。</li> </ul>

### 3 事業の評価

#### ○評価の項目

<p><b>1.「中核病院整備の理念」に従い、病院運営を行っているか、を評価します</b></p> <p>&lt;評価項目 ①、②、③、④&gt;</p> <p>永寿総合病院は、台東区の支援のもと、下谷病院の病床と後医療を引き継ぎ、区の要請する政策的医療を実現する台東区の中核病院として平成14年2月に開院しました。平成23年8月に新たに締結した台東区との協定に基づき、「中核病院整備の理念」(p1)に従い、台東区民に必要な医療を確保し、急性期医療の中核病院としての役割を果たしています。</p>
<p><b>2.政策的医療を中心とした医療機能を安定的に確保しているか、を評価します</b></p> <p>&lt;評価項目 ①&gt;</p> <p>政策的医療を中心とした医療機能を安定的に供給し、計画的に充実していくために、台東区は永寿総合病院の運営に係る経費の一部を支援しています。</p>

#### ○評価の段階

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等の水準に達している状態
C	目的・要求等に対し、補う必要がある状態

#### ①組織・機能の評価

<p><b>政策的医療を中心とした医療機能・水準の確保・充実(台東区中核病院に対する運営費助成、理念1)</b></p>
<p><b>【医療機能等】 区内に必要ではあるが不採算性などの理由により不足している医療を安定的に供給し、計画的に充実しているか</b></p> <p>永寿総合病院は、台東区の支援のもと、台東区の地域医療の中核を担う病院として必要とされる医療(政策的医療)を確保し、地域の医療供給体制の向上を図っている。特に、小児科、産科、救急医療などの医療について、安定的に供給し、計画的に充実している。(台東区中核病院に対する運営費助成事業(平成23～27年度))</p> <p>◆協定に基づき区が永寿総合病院に要請している医療機能等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小児科 ○産科 ○救急医療</li> <li>○災害時拠点医療 ○療養病床 ○集中治療室機能 ○急性期リハビリテーション ○緩和ケア</li> <li>○医療連携</li> </ul>
<p><b>&lt;これまでの主な取り組み&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産科医療については、区内で出産のできる唯一の病院として年間400～500件分娩可能な体制を維持し、台東区の出生届件数の3～4割に相当する数の分娩を担当している。</li> <li>・小児医療については、小児専門病床を確保し、小児科入院患者延数は年間1,300名程度の水準で推移しており、また、外来においても精神保健外来、呼吸器外来、漢方外来、神経外来、小児心臓外来、などの専門外来を実施している。</li> <li>・救急医療については、救急科専門医師を配置し、独立した診療科として標榜しており、休日・全夜間診療を堅持している。平成23年度に、より多くの救急患者を受け入れるために救急処置室を59.21㎡から104.20㎡へ拡張し、処置ベット数を2床(ほかストレッチャー2台)から6床へ増設した。</li> <li>・全国的な医師不足の中、必要な医療資源の確保として、慶應義塾大学医学部を中心に必要とされるスタッフの確保に努めている。また、7:1看護制度(※)の取得、DPC(※)の導入、総合内科の設立、救急専門医の確保、電子カルテシステム導入、ハイケアユニット加算(※)の取得・1床増床、無菌室6床整備、感染病床38床の整備等、急性期病院(※)としての機能整備に努めている。</li> <li>・連携機能として、紹介患者数・逆紹介患者数は毎年堅調である。具体的な取り組みとしては、医師紹介パンフレットを毎年更新し、区内医師会員、連携病院への送付や、医師会経由で院外向け広報誌「えいじゅ」を医師会員へ送付し、院内情報の発信をしている。</li> </ul> <p>※ 7:1看護とは、1人の看護師が7人の患者に対応する最も手厚い看護制度。          ※ DPCとは、医療費の包括支払制度で、病名や症状の分類ごとに医療費を算定する方法。          ※ ハイケアユニット(HCU)とは、高度で緊急を要する医療を行うための準集中治療室。          ※ 急性期病院とは、緊急・重症な状態にある患者に対して入院・手術・検査など高度で専門的な医療を行う病院。</p>

<今後取り組みたいと考えていること>

- ・産科外来整備、新生児室整備
  - ・小児科医師増員、病床の整備
  - ・感染症対策の充実(地域医療機関との連携強化・外来採痰ブース設置など)
  - ・災害対策として、DMAT(※)への参加、蘇生などの防災時対応訓練の強化・充実、台東区、医師会との協議による当院の役割の明確化
  - ・最新医療機器を導入し、利用者への質の高い医療の還元(結石破碎装置、透析装置、PET)
  - ・老朽医療機器の更新(血管撮影装置・・・循環器科、脳外科などで使用)
  - ・東京都地域がん登録(24年9月予定)病院となり、がん治療の充実
  - ・地域医療連携システム構築による区内医療機関との情報共有→紹介、逆紹介(※)の推進
  - ・認知症診療や糖尿病治療での地域連携の推進
  - ・東日本大震災後の電力不足に対する節電への継続的な取り組みの徹底(照明のLED交換)
- ※ DMATとは、災害派遣医療チーム。  
 ※ 紹介とは、他の医療機関が中核病院に患者の診療を依頼すること、逆紹介とは、反対に中核病院が依頼すること。

事業者  
(自己)  
評価

根拠

<政策的医療における23年度の現況と主な取り組み>

- ・産科小児科の一体的運営  
台東区出生届件数の3～4割の分娩数を担当。23年度は449件と毎年400～500名に対応できる体制を維持している。小児科入院数は23年度1,326名であり、この水準を維持する努力をしている。
  - ・救急医療  
常勤医師1名増員。より多くの救急受入を実現するために、救急処置室の拡張工事を実施。23年度の救急車受入件数は4,162名と前年比394名増となった。区内救急隊からも搬送しやすくなったなどの評価を受けている。
  - ・災害時拠点医療機能  
年2回の防災訓練を実施。東日本大震災後、災害派遣の医師登録などを行った。今後はさらに区や医師会との協議のもと、当院の役割について検討していきたい。
  - ・療養病棟機能の維持  
23年度は入院延数12,749名と前年比2,043名の増となった。
  - ・集中治療室  
23年5月にHCUを1床増床し、より多くの患者受入れを可能にした。
  - ・脳卒中などの後遺症に早期対応するリハビリテーション  
リハビリテーション職員を増員し、体制強化の努力をしている。患者延件数も前年比11,411件増(36.9%増)となった。  
リハビリテーション職員の推移は次のとおり(各年4月1日現在)。  
22年:作業療法士3名・理学療法士7名、23年:作業療法士4名・理学療法士10名
  - ・緩和ケア  
東京都医療圏区中央ブロック(文京、千代田、港、中央、台東)で40床有する病床のうち、16床を当院が担当しており、23年度受入患者延数も4,693名と前年比384名増で推移している。
- <その他>
- ・平成23年5月からメモリークリニック(物忘れ外来)を開設し、神経内科医師の診断・治療、臨床心理士による各種カウンセリング等認知症診療の強化を行った。
  - ・内科外来ブースの1診察室増設により、待ち時間の緩和を図った。
  - ・医療機器の新規購入・更新を行い、最新技術による医療を受診者に提供した。  
(主な機器)健診X線テレビ装置、眼底三次元画像解析装置、開頭用ドリル
  - ・乳がん検診の受入れ増加のため、東京都の補助を受け、マンモグラフィー装置を1台増設するとともに、マンモグラフィー検診精度管理中央委員会「検診マンモグラフィ読影認定医師」取得のため、1名を講習会へ派遣し、資格を取得した。

A

運営  
協議会  
評価

根拠

産科、小児科、救急医療、急性期リハビリテーションをはじめ、協定に基づいて、区から要請されている医療を安定的に供給しながら、それらの機能の充実に取り組んでいる。また、高齢化の進展に伴って、増加している認知症に対応した機能や体制の強化により、実績が堅調に増加していることは評価できる。  
小児科をはじめ医師確保などが困難な状況にあるが、今後は、区が要求している「安定的に供給」という点について、より一層拡充されたい。

A

**【機能水準】 適切な機能水準が満たされているか**

(第三者評価をもって評価とする)

- ・日本医療機能評価機構病院機能評価を継続して受審し、認定を受けている。(平成13、18、22年12月)
- ・日本医療機能評価機構病院機能評価の付加機能(緩和ケア機能)の認定を受けている。(平成20年6月)

**②役割・使命の評価**

**地域完結型の医療供給体制(理念2)**

**【中核的役割】 役割・使命は十分に果たされているか**

事業者 (自己) 評価	A	根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内に必要なではあるが不採算性などの理由により不足している医療(政策的医療)を安定的に供給し、地域の医療供給体制の向上に努めた。</li> <li>・特に急性期医療体制(外来、入院、救急)を確保することで、診療所、病院、区内福祉施設などへの急性期対応を図った。</li> <li>・区民の方を対象とした、公開講座を年間13回開催し、参加者から好評をいただいた。</li> <li>・ホームページの見直しを随時実施し、リアルタイムな情報発信に努めた。また、医師顔写真も可能な限り掲載し、受診者・関係機関への情報発信に努めた。</li> <li>・区民の利用率は約70%で、多くの区民の方にご利用いただいた。</li> </ul>
	運営 協議会 評価		A

**【相互連携機能】 連携機能は十分に発揮されているか**

事業者 (自己) 評価	B	根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携の推進として、医師会共催の合同症例検討会を1回、公開学術講演会を3回、11月には両医師会、薬剤師会などを招き「病診連携の会」を開催、講演、懇親会を行った。</li> <li>・医師以外の外部連携のために他職種においても勉強会を開催している。(主な勉強会)ホスピスケア研究会:年13回、台東区リハビリ道楽会:年3回、放射線科勉強会:年1回</li> <li>・病診、病病連携(※)向上のため、昨年に引き続き、医師紹介パンフレット(顔写真入り)をリニューアルし、区内医療機関、連携先病院などに広く配布した。なお、関係医療機関を集めて年1回行っている病診連携の会には総勢137人の参加があった。</li> <li>・紹介・逆紹介率(※)向上に努力したが、平成23年度は紹介率37.85%(前年比+1.2%)、逆紹介率13.07%(前年比+1.3%)と前年比微増にとどまり、さらなる努力が必要である。</li> <li>・救急診療施設の整備により、診療所、病院、区内福祉施設との医療協力体制を保ち、受け入れ体制を強化した。</li> </ul> <p>※ 病診連携とは、病院と診療所の連携、病病連携とは、病院と病院の連携。                  ※ 紹介率とは、『他の医療機関から紹介された患者等の数』÷『初診患者の数』                  ※ 逆紹介率とは、『他の医療機関へ紹介した患者等の数』÷『初診患者の数』</p>
	運営 協議会 評価		B



### ③経営・管理の評価

経済性の還元(理念3)		
【事業運営コスト(資産の活用状況に関する評価も含む)】 事業運営費等の効率性は発揮されているか		
事業者 (自己) 評価	A	<p>根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率は、平成23年度86.9%(一般病床では88.8%)となり、平成22年度84.9%(一般病床では86.8%)を上回った。 1日外来数は、平成23年度786.2名となり、平成22年度756.8名を上回った。</li> <li>・ 外来、入院単価が向上した。平成23年度外来単価は9,675円、入院単価は47,467円、平成22年度外来単価は9,031円、入院単価は45,530円と、いずれも上回った。</li> <li>・ 投資については、救急処置室の拡張工事、医療機器の購入などで全体購入価ベースで2億5,506万円(内リース分は1億2,480万円)の投資を実現した。</li> <li>・ 1床当たり46.14㎡の狭小施設の中で効率の高い運営を行っている。 (参考)公立病院(200~600床)平均 80.70㎡、私立病院(200~600床)平均 63.70㎡</li> </ul>
運営 協議会 評価	A	<p>根拠</p> <p>運営総費用の約86億円に対し、区から1億円の運営費助成が行われているが、これは政策医療を担う立場にある都内公的病院等の他会計繰入金対総費用比率と比べて低い数値である。また、減価償却費比率を抑えながら、購入ベースで2億5千万円の投資を行っており、計画的に医療機器の更新や施設の改修を実施していると評価できる。さらに、病床稼働率、一日外来患者数、診療単価などは前年度と比較して向上していることから、機能分化を図りながら希少な資源を有効に活用していると評価でき、区民に利益を還元していると言える。</p>

### ④運営プロセスの適切性の評価

運営の透明性及び説明責任(理念4)		
【透明性・説明責任】 客観的な調査手法により運営プロセスを検証し、関係者の方に広く公表しているか		
事業者 (自己) 評価	A	<p>根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成23年度は公益財団法人認可申請のため、所轄官庁の東京都に対して事業内容、事業報告、財務諸表、定款、議事録などの詳細な調査を受けており、運営プロセスの透明性は証明されたと考える。</li> <li>・ 平成24年度以降も公益財団法人として年1回の調査と経営資料、財務諸表、議事録などの一般への閲覧が義務付けられ、広く公表している。</li> <li>・ 患者様の声を聴き、運営に反映させる方法として、6か月ごとに患者満足度アンケートを実施しており、その中のご意見の中から改善を試みている。今年度は「接遇」に対する取り組みを進め、あいさつ運動などを展開した結果、平成23年5月の調査では4.54(5点満点)であったが、平成24年1月の調査では4.62と、改善した。これらの結果については、病院広報誌「えいじゅ」に掲載し、外来、入院患者様に広く配布している。</li> <li>・ 患者様の声というご意見箱への投書については、内容を検討し、その改善結果や返答を院内専用掲示板へ貼付し、公表している。</li> </ul>
運営 協議会 評価	A	<p>根拠</p> <p>公益財団法人の認可を受けていることにより、運営の透明性や説明責任を果たしていると評価できる。 今後は、公益財団法人として、経営資料、財務諸表、議事録など、区民が容易に閲覧できる体制を充実させ、広く公表するとともに、担っている医療機能や経営上の課題等についても、区民に分かりやすく情報を提供されたい。それにより、地域医療を支える中核病院への助成について、区民が納得できるものと期待する。</p>

#### 4 総合評価等

(総合評価)

協定に基づき区から要請されている医療を安定的に供給しながら、その機能の充実に取り組んでおり、急性期医療を中心とした区の中核病院に求められる医療について、十分に役割を果たしていると評価できる。

また、運営面についても計画的に医療機器の更新や施設の改修を実施していること、病床稼働率や一日外来患者数も前年度と比較して向上していることなど、効率的な運営を行っていると言える。

今後は、中核病院として、より密接な病診・病病連携を行い、地域とのネットワークの中で、地域連携について引き続き努力する必要がある。小児科をはじめとして医師確保等が困難な状況ではあるが、政策的医療を中心とした医療機能を、引き続き維持・充実されたい。また、財務諸表等だけでなく、担っている医療機能や経営上の課題等についても、区民に分かりやすく提供するよう一層努力されたい。

(その他の意見等)

今後、台東区は、急性期医療を担う中核病院と慢性期医療を担う区立台東病院が、区内の他の医療機関と、より緊密な連携を図れるよう、両病院の役割分担を明確化するための仕組みを構築し、区民が住み慣れた地域の中で、必要としている医療を受けられることについて、広く周知することを期待する。